

誦諧
京羽二重
二卷



逸曠

韻古



可致

俳諧點者 並 俳諧師

三条通 ヨリ 二条通 三ノ 之間

次才
不同

松月庵池流

川糸町通

三條上ノ町

随流ノ紋と付流也

春水

随流

向陽堂好春

山崎町通

柳池下ノ町

よりのし

御所屋

好春

女房世

池流亭好春

衣柳通

池下ノ町

京のよふ葉成りし人のむら

好春

春花堂松翁

車窓所通

押落下所

常とく

如魚

まこと 秋 東の 湖

友鶴大先生

石洞院通

池下所

子の妻の

白鳥右

嘆らんみ月雨

芝山岸

別風

油中河通

二条下所

幅幅の 日午花 糸子の 林外 別風

田中三葉

路川通

二条下所

石井筒 一室ふり那 三葉

竹葉新風子

三条通

川原町八所

欲いさく盛年あはれは
ハナ子

誹諧師 並作者

あまふらふらふらふらふら
あはれは 元清

あはれはあはれはあはれは
あはれは 未達

あはれはあはれはあはれは
あはれは 集

あはれはあはれはあはれは
あはれは 依

あはれはあはれはあはれは
あはれは 常

あはれはあはれはあはれは
あはれは 命

あはれはあはれはあはれは
あはれは 測

三

三三

三

二四

伊廟野の草々ぬき此念仏の如海

鴨緑もまや堤し鳴きほり一翠

牛飼のふんははははははは如猶

身の人れははははは柳外一海

折折まのこころはもすじりた芝蘭

えくぬもりのこころは思ふ法

入りのまもまはははははは

涼しと涼しとくくくくくく

腹たまはははははははは

釣亭にかつれまははははは

う海やまのまははははは

ふとらと都と塩のうはははは

おもひのこころ

同本

同本

同本

同本

同本

本也町一ニ条

同本

同本

同本

同本

同本

同本

同本

同本

同本

同本

同本

同本

同本

同本

同本

同本

同本

山形市

系りぬる島よ花咲かぬの美 愚業

鳥もよき

浪船やわく波の 水車 梅友

口色場

みよづく浪車一白度秋 水

田所

霞の柳一葉の 水子 為訂

川

涼も大魚の 舟は船 賦山

山

そと樹 湫くわの 枯野 水 水色

トモ

あ 怪 喜 ぬくし 吃る 柳 湖

車

細くもくしな 揚 柳 影 氏

川

女 車 踏 ころり 由 所 宮 川

女

高の 葉や 風 氣 凡よ 柳 山

山

森 光 六 尺 白 寸 之 氷 柳 葉 梅

柳

ま じり の 葉 の 影 柳 葉 光

一為二は白の中一が乳を食す 石知

押さるる所

おぼろのまがら

水車とておちり秋の暮 阪市

おぼろのまがら

名目やうらうらゆれき 島

おぼろ

只白一揚り 女 水流

おぼろ

鴨の音 白 松隠

おぼろ

白濁と拾ひく女婿の化粧 花目

木女れ音人 南 妻

おぼろ

うらや 柳 風

おぼろ

お火焼や 女

おぼろ

躍みれ 竹 枝

おぼろ

辻 林 鳥

おぼろ

けー 山

おぼろ

少きし言し一取と風流非 董胤

同所

美らけそわこりるぬ来産非 董胤

押寄 董胤

良わりて又赤二晴首又赤二連非 信治

董胤 押寄

足い又赤二わくび小秋方友也し 酒酌

作者次第不同

正勝 園之 玉芝 松色 帆山

成重	和夕	松山	玉之	裡中	和得	廻雪	白鴉
光矩	何夕	勝負	自矣	貞安	出林	三徳	光之
由良	貞友	秋扇	栗安	全林	長貞	明信	夕推
	雲竹	竹信	一計	自水	山信	掉寄	光益
	自休	秀貞	和石	金豎	西徳	正之	方舩

排諧者 並 排諧師

二条通 日下立賣通 之間 次第

三河梅盛

二条通 西門沈入目

心 世の想の如し

去日

海城

宗化堂常牧

油中河通 九田町兵所

湯火や静泉牛丸なる 常款

保壽信徳

新町通 竹屋町下所

尻いし虫小喰ふん 信徳

寺田重德

寺町通

二条上之町

妹
重德
暮
繪
山
心
下
美

谷崎谷遊

多倉通

竹町下町

三貝足

病
丸

善
丸

遊

鴨水只丸

川原町通

二条上之町

更衣
只丸

小條園水

西營町通

二条上之町

病
丸
園水
丸

菅茶塚石

新町通

竹屋町下町

鞠るるる
四月
柳下
海へ

青木澤水

寺町通

竹屋町上町

夕ふ
歩
警水

吐雲園天龍

丸田町通

西町之東八町

相撲
秋
念珠

中川引牛

丸田町通

新町之八町

十
味
引牛

物殿心咲

松徳通

九田町六所

所歎の聲

とらりくふの神水也

東風仍立吟

保町通

竹石町六所

風の東のふりよるふりよるふりよるふりよる

音程唐浮竹

二条通

此段の所

ひよふふりよるふりよるふりよるふりよる
浮竹
浮竹

夏夕

西宮川通

柳子橋東八町

ひよふふりよるふりよるふりよるふりよる

おのの聲

夏夕

誹諧師 並作者

多々 二久末上

後戸小飽もて花のほろ小 春滝

田所

らく藤よ若の河小 嘆きつ 干土

洛西 名水

ひのささきし のよらん師走小 笛水

回石

流川 一 然かき 一 以麻踏小 潤口

徳本町 同の所

宮人 一 柳さうりて 笑より小 具糸

二条 御坊 名水

家毎 一 若とおして 心花見小 原水

竹の所 名水 同の所

わさ 一 実十日と ぬく 一 河むさ 御水

二条 玉の所

物ん 一 ちと 家は 一 木よ 橋の 水 鹿元

小川 下 名水 下ん

橋の 若 産れ 流や 馬も 一 心 意碑

目色 魚初

わん 一 かしと 病 一 わよ 柳 信 敵推

果—まの水仙と作同所ひまぢぢぬ 一要

洛西 武初鬼峯

なまこ同所蓮の葉同所 高草

洛西

日同所花同所—名同所花同所 蟻

あつ所行所

し同所花同所—丸同所和同所 大枝

西初夜二系上

あす同所花同所—丸同所ま同所ら同所 道産

馬の下立

喰同所也同所—嫌同所い同所る同所丸同所魂同所 知房

小川

三同所葉同所ら同所て同所花同所 柘同所木同所や 桐同所の同所苗同所 凡同所北

馬の竹

福同所平同所丸同所福同所土同所—の同所花同所 下同所 海同所外同所 漁同所舟

竹の町

葉同所の同所花同所—の同所花同所 海同所の同所人同所 尹同所具

日所

花同所の同所花同所—の同所花同所 冬同所風

さう

花同所の同所花同所—の同所花同所 当同所玉

油

麻同所の同所花同所—の同所花同所 如同所遊

二条福入口

ずり〜のひら〜り〜の秋 秋銀

通船の人ま〜り〜ぬ〜 一林

月ハ去れぬ〜ハた〜ぬ 松林

山麓ハ目〜と〜ハた〜ぬ 雲

行み〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜 亭風

行〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜 不殘

わ〜ぬ〜痛〜ぬ〜ぬ〜 如等

梅〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜 觀子

行〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜 吟眩

六月や〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜 左馬

海〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜 柳石

ら〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜 三友

持の巻じろゝ、ヲナシ雅らるる妙三行

月影や菘みじろゝ新所魚物下しよとら草也

黒と牛丸をとりつるまの物も同所し未及

蛭書心一村雨れお駝陌河島 同柳

海づらふ二角一こつと馬所同所しつらう魂みふ 酔雪

まらふ一法れび同所ららち 玉聲

上用はやくみこつと馬所同所しあまの氷 越之

雷よ夏乃ま同所るる水 玉詞

晒さけりあ田所馬所同所しつらう 貞見

いしり同所るる水 柳枝

川得一田中同所女ららるる水 弘云

波下て眠けり同所りの清水外 南枝

一 流のきくくぬく氷柱の洞山 日所

流にぬ氷柱の中の松葉外友夕 二条三玉所

流にぬ氷柱の中の松葉外友夕 日所

流にぬ氷柱の中の松葉外友夕 日色名橋所

三ヶ月と細く千代はばいぬ音水 日所

を氷く魚熟るみりくみ 二条路所 流雲

風上クワウの秋の秋の音ユエ 正南

晴く流のきくくぬく氷柱の洞山 日大門所

拾らぬきくくぬく氷柱の洞山 日所 嶺子

菊回しハクキの音ユエ 竹所色名橋所 阿誰

たのしみおぼくぬく氷柱の洞山 魚初仲の音所 賀女

花よハナの音ユエ 日所 洞山

人づかき 竹之町 田代 西又
白木

傾城や 躍らぬ 舟の ありよし 車を町 行の 所なり
む計

けいさく いづくまの 魚ノ 柳ノ 人
舟の 目

舟の 衣 芥 摘 採 舟 遊 友 舟を 町 行の 所なり

桑 馬を 町 行の 所なり
母 氣

日 和 人 し 雪 と ち ね ぬ り ん 碓 氷 正 興 舟を 町 行の 所なり

離 舟の 町 行の 所なり
舟 遊 友

舟 いづくまの 田代 西又
又 玄

舟 舟を 町 行の 所なり
碓 氷

舟 舟を 町 行の 所なり
流 水

舟 舟を 町 行の 所なり
友

舟 舟を 町 行の 所なり
吉 音



二天

九条一尺の葉と因れ水に

批の首句依んと申し七部

佛人しんしんしん

八道一三三三批難

西風膏肥多乳人しん

川高にゆりし海乳

日可

東風河内河内

日色三三三

新所竹竹竹

鳥鳴竹竹竹

作者以才不同

命政 金豎 祐之 保木 從心

松膏 松果 定吉 花林 水仙

秋赤 為徳 可山 曉水 海山

針當 麻玉 魚水 澄風 阜條

馬物 一舟 月尖 花曲 峯子

松吟 一言 又丸 心水 流水

出香 窓敷 百内 重則 可見

昏乳 象利 珊瑚 旭山 鼠角

山茶花 珍水 一遊

京

三

俳諧點者 並 俳諧師

下立賞通ヨリ 上京柳原三テ之間 次才 不同

竹山重榮

室町通上ニ 一柳系

乃乃月也 花よ 重榮
若乃草

眼部定式

新町通 中長末町上ニ町

七月ハ 考に物ニ記 定式
何事也

橘祥光為古

薩長町通 水と上町

早々稲也 陽のゆき乃 居在
たる川也

京

北

木戸走竹

小川通上り高

妙高寺前町

晴帆の蹴切の流竹 素

撒谷松月

中立貴通

石巻入角

以たる人綿くす守り一應おる 松月

二二朝陽川

小川通

上長者町上町

木一丁や中な 陽川

秋雷軒下常

中長者町通

小川東入町

紅葉おのり 下常

河副貞量

小川通

中庄賣上所

枯きしつゝは

宗景

日足小

二行新生西

上長者所通

小川東入町

喉拘、其女志、生西
空しり、生西

誹諧師並作者

室町一全の記

其日小就長むくん以、由ト

日色長所一

けり法葱、女らり乃物んぬ一栗

寺何上以矣

花らんぬ、以持れり、花の

申立賣初め下

鳥たむじと梅のわす、
新色、
宗景

東

西

花^{ヒハズ}の俗^{ヒハズ}の羽織と^{ヒハズ}の友^{ヒハズ}求^{ヒハズ} 正隆

下三賣西四夜

好^{ヒハズ}の^{ヒハズ}と^{ヒハズ}柳^{ヒハズ}の^{ヒハズ}は^{ヒハズ}家^{ヒハズ}の^{ヒハズ}田^{ヒハズ}徳^{ヒハズ}外^{ヒハズ} 島山

申長志河始り東入

竹^{ヒハズ}の^{ヒハズ}名^{ヒハズ}や^{ヒハズ}島^{ヒハズ}津^{ヒハズ}の^{ヒハズ}名^{ヒハズ}を^{ヒハズ}知^{ヒハズ}る^{ヒハズ} 素

中三賣西四夜

迷^{ヒハズ}ふ^{ヒハズ}は^{ヒハズ}流^{ヒハズ}く^{ヒハズ}は^{ヒハズ}心^{ヒハズ}ほ^{ヒハズ}る^{ヒハズ} 流^{ヒハズ}水

口水

花^{ヒハズ}の^{ヒハズ}名^{ヒハズ}を^{ヒハズ}知^{ヒハズ}る^{ヒハズ} 洞^{ヒハズ}水

口水小川

花^{ヒハズ}の^{ヒハズ}名^{ヒハズ}を^{ヒハズ}知^{ヒハズ}る^{ヒハズ} 記^{ヒハズ}水

口水の甲三賣下入

不^{ヒハズ}棄^{ヒハズ}た^{ヒハズ}れ^{ヒハズ} 姫^{ヒハズ}の^{ヒハズ}名^{ヒハズ}を^{ヒハズ}知^{ヒハズ}る^{ヒハズ} 仁^{ヒハズ}保

小川一蓮池

夕^{ヒハズ}暮^{ヒハズ}の^{ヒハズ}名^{ヒハズ}を^{ヒハズ}知^{ヒハズ}る^{ヒハズ} 遊^{ヒハズ}所^{ヒハズ} 遊^{ヒハズ}之

口三賣西四夜

ゆ^{ヒハズ}く^{ヒハズ}人^{ヒハズ}の^{ヒハズ}名^{ヒハズ}を^{ヒハズ}知^{ヒハズ}る^{ヒハズ} 舞^{ヒハズ}臺^{ヒハズ} 舞^{ヒハズ}臺

口三賣西四夜

勸^{ヒハズ}め^{ヒハズ}り^{ヒハズ}の^{ヒハズ}名^{ヒハズ}を^{ヒハズ}知^{ヒハズ}る^{ヒハズ} 機^{ヒハズ}の^{ヒハズ}名^{ヒハズ}を^{ヒハズ}知^{ヒハズ}る^{ヒハズ} 西^{ヒハズ}南

口三賣西四夜

平^{ヒハズ}井^{ヒハズ}の^{ヒハズ}名^{ヒハズ}を^{ヒハズ}知^{ヒハズ}る^{ヒハズ} 水^{ヒハズ}風

口三賣西四夜

登^{ヒハズ}り^{ヒハズ}の^{ヒハズ}名^{ヒハズ}を^{ヒハズ}知^{ヒハズ}る^{ヒハズ} 舞^{ヒハズ}臺

ある一紙に八十はねの紙

小川一宗と申す

中程くるる一と一かの色も味も

新入

約念はほども木乃葉は

湯系

美玉や年れ垢も極り

景卿

水色や酒汁漕捨心

逢牛

桶の輪れくわくわく

荷葉

更し月音よ昔はも

次

夕まの果もや重よ物

白

花の葉もハ嘘の里れ

白

明の光や地味乃

永之

徳島のね中をほく

永之

福れれ松はら

永之

一息の音このぬもほよこふ水

作 燈のすしよわろし 蓮野 安産

柳のりふと 後のわもよふのすけ 松船

花のさかすてらあぬ風 龜三

帷子れ 裏さくくさり 凍傘

望懐よ 暮さ 秋の 信風 如保

人の顔いづれ 瘰癧 秋の 音 吉川

かへも 人とは 百合よ 念 秋の 音 秋下

作者 河牙 不同

丈有	正栄	林下	二休	一星
挽山	宗宇	柳子	河水	琴内
二室	光俊	不辭	元昌	扇内
定悦	了安	忠利	春活	行雄
誠信	善山	具常	夫柳	

俳諧點者並俳諧師

西陳

鶴冠并全盛

西陳

りよの町

蠅

いさとし

肉や角

き

全盛

植着

黒田貞義

鶴冠并町通

大宮西八町

きあせり

又石乃

きあせり

貞義

きあせり

鈴木信房

町通

西八三丁目

きあせり

生

はらこ

きあせり

信房

きあせり

東

二

眠柳堂常春

寺の回通

大徳二年二月

起るに秋六早し寒の折 常春

依教舟家

お哲の通

念光院三町目

暮らしてゆく世の情と心 舟家

依教舟家

お哲の通

大徳二年二月

の暖さうそあそこのうらみあつた友麻

市村強石

お野強堂通

今迄町

今朝初花 又春の心 強石

八本如水

大宮通

上立賣上町

以れろ
新の
同の水
如水

吟燈子堂水

中野通

千石の二町

あしき
耳の
社
如水

俳諧師 並作者

きんこ

あま水はほろろと
あま水はほろろと
墨袖

大町通

あま水はほろろと
あま水はほろろと
墨水

大町通

あま水はほろろと
あま水はほろろと
貝水

大町通

あま水はほろろと
あま水はほろろと
可系

福の心花の心りし 括らん家 戸角

西条の心りし

くしくと 旋野く心 碌 心河 乙晴

乙晴の心りし

より心や 舞れ けりか 心 益大

西条の心りし

西条の心りし

大又心 中 心りし 心 宗 務

西条の心りし

鶴とや 心 極 心りし 心 宗 務

光明無量壽命無量

身命心りし 心りし 心りし 心りし 心りし

心りし 心りし 二幅 心りし 心りし 宗 務

西条の心りし

心りし 心りし 心りし 心りし 心りし 宗 務

西条の心りし

水りし 心りし 心りし 心りし 心りし 益 貞

西条の心りし

心りし 心りし 心りし 心りし 心りし 益 貞

西条の心りし

心りし 心りし 心りし 心りし 心りし 益 貞

西条の心りし

心りし 心りし 心りし 心りし 心りし 益 貞

西条の心りし

宗

二五九

唯此の留とるを化転かり元

回本北中河所

今又の葉子の群の相輝 良夜

回本北中河所

星トて星のしやうれ吉吉計 雲

回本

雲と輝地いしよるまらけけ 悦章

回本中河

人らとていしよるまらけけ 政則

回本中河

双たや・中河とくらくらとらるる 忘加

回本中河

唯のたやとらるるまらけけ 尚春

回本

うくくあれ花のひや 正辰

回本北中河

平雲の清粥にまらるる電の風 行棠

一条路り西入

水はくく晴れたるあつた白くな 礼流

西本當所

世の中よももをまらるる水 定勝

西本一色所

雲よよとる野のまらるる一之

京

二七

ふりかり此の崩きよす此後 姥杓子所 延後

曉の松よりきこし 水所一境也 色 貞義

雲の香よるるにありり南歌 此まよひ所 定隆

常盤木より末を煙のみにし 辰心所 志

清らよみり現るねしく 黒門中三葉と 好行

一重二重 ヤブ けりもれをばけり 白所 吟松

あり茶の流揚てけ茶摘み ちまろ下し 一松

もまよ 白甲ききと 算ねぬもれ長し 摸らふ 念水

音ね 白 鳴の響くをばけり 庭水

いし 白 日向し 以水

初光や松 千尋寺と けり 貞真

花名 知魚支後橋所書林 麿 月 松山

作者次第不同

友如	止溪	親昌	房尚	芦氏	花月	一	玄昌
宣隆	宗種	正次	宗明	言矣	常久	西風	友俊
易庭	定務	清永	元理	善昌	榮授	舟山	梅水
冬木	重成	再王	林角	白系	清房	卧玄	明氏
如舟	是信	正景	一星	堀水	石柳	圍宮	排羊

平一の句一切字

一の句一切字

車屋所通

竹屋所通

上
 下
 左
 右
 中
 外
 内
 前
 後
 東
 西
 南
 北
 上
 下
 左
 右
 中
 外
 内
 前
 後
 東
 西
 南
 北

誹諧 漁者

友身

一乘色
馬

之移

馬の通
一乘下

忠直

留中色
押中下

自悦

多色
押中下

如風

柳の湯色
八幡町下

秋風

今川町色

五所色
山池上

頻也

今川町色

留町色
丸田町上

如雲

五所色
竹町下

千之

今川町色

今川町色
一乘上

可園

新町色
三乘下

一七日

留業師色

重好

徳慈色
丸田町上

重知

五所川色
留町

貞竹

小川色
三乘下

誹諧 清書元

轉の鼻孔日よぐらひの鼻孔 是正

新町通丸田町上木村源六

西洞院通六角下町西洞院

撰丸よしもゆり木線丸

西川通平野松等六町
吊洞

東洞渡通出水上八町
琴丸

西洞渡通二条下八町
西月庵

俳諧書林三物所

寺町通二条上八町
井筒

西月庵
書勝

陳留の若蘭が錦乃^{ウタ}流いづらふ尺よ満ざら^アア
八百余れ文字紙織て連波が心の水よ流つらと^ウや
奥^ウ林^ウ鶴とつづ者あり。山の^ウ經^ウあを^ウと緯^ウあしと^ウ。
も^ウこ^ウら^ウあ^ウ乃^ウ乃^ウく。京^ウ羽^ウ二^ウを^ウ工^ウを^ウり^ウも^ウら^ウり^ウ。
ま^ウら^ウを^ウた^ウく^ウあ^ウら^ウま^ウど^ウり^ウぬ^ウ。い^ウの^ウ山^ウを^ウけ^ウあ^ウら^ウ
も^ウあ^ウり^ウと^ウあ^ウら^ウふ^ウあ^ウら^ウと^ウと^ウと^ウ。鶴^ウあ^ウよ^ウと^ウら^ウら^ウい^ウ
一言^ウ宿^ウの^ウほ^ウど^ウよ^ウあ^ウ秋^ウの^ウ風^ウ

昔元禄四年辛未秋八月下浣

蘆月庵似船書之

林鷗子あつて文とらりて錦城の
 跡を横とわくららるるのちあま
 自撰イハクチと書して練
 即イハクチころあね二重一之花オヨシ温オヨシ
 當今之走馬看工多休嘆オヨシ
 下イハクチ撰イハクチ遊イハクチ
 元禄萬年之四秋之暮月之晦
 鴨水只九下翰於琵琶東軒

源姓乃京ね二重ハ七夕素ね子際かも
 あつて生田所祚の職はらイハクチ
 堀江林鷗乃孫仕まゝる前かて此乃志
 緒イハクチ女く傳まイハクチとイハクチ家イハクチあまイハクチ成イハクチ見イハクチらイハクチり
 勸思女イハクチ立イハクチ横イハクチやイハクチいイハクチひイハクチを林鷗子も
 広おイハクチとイハクチふイハクチらイハクチるイハクチ先イハクチ哲イハクチもイハクチまイハクチらイハクチるイハクチを
 感して今や草如京
イハクチあイハクチるイハクチ同イハクチ人イハクチ八イハクチ三イハクチ日
 京化堂常牧書

堀江林鴻子京華詠原乃
 句を集て世羽二まよありと
 其遠大のいしき^カ彼香林
 遠^カ之紙衣乃禄也いつれう
 好ま^カ曰別々不別

い^カく^カ瑞^カの^カ詩^カく^カ種^カ和^カ凡^カの
 作^カい^カし^カう^カた^カの^カ系^カあ^カ名^カは^カあ^カて
 を^カ人^カし^カく^カれ^カあ^カや^カ少^カ歳^カ事^カを^カい
 夜^カや^カ林^カ崎^カを^カ五^カ百^カ棧^カく^カし^カり^カあ^カる
 言^カの^カあ^カ一^カま^カを^カの^カ障^カち^カく^カを^カい
 う^カし^カく^カい^カあ^カく^カあ^カる^カ京^カ羽^カ二^カま^カり^カ

言水

京
二
坊

鄒國に干織薦大賢^ラこ^ラ子林鴻子
あはれ移^レり^レて^レ下^レ軍^ノつ^レて^レや^レか^レ指^レく
四^邊の^中に^一枚^の衣^をき^てき^くと^し襦^の
袖^をも^まり^て京^羽二^重の^編て^綜敷^糸
の^餘と^跋を^乞ひ^て其^糸に^比ぬ^りき^き
何^くハ^止る^所と^免毫^の檢^を平^まり^て
所^一一^と幾^れく^為撥^てく^打

幸未無射念五日
吟花堂
晚山

林鴻綴誄詣集名^ラ京羽二重^ノ所謂^也
京羽二重^者京師所織出之^密絹也^{ナリ}
其美^ナ怡^シ如^シ以^テ羽^毛二^片作^ス經^緯今^以
此^石之^竊比^ス蘇^若北^蘭錦^字詩^者予

招鳩軒

イ

二
坊

請跋諾

本鴻所撰俳諧京羽二

重一韻四冊

讚曰

虛談誤也王夷甫

團水書

多むれとて是とち先ら
 今林鴻子とてむすむ
 作用し今林鴻子とてむすむ
 深本えの書とて仙毫とて
 此は外に懐かきとてあ
 みるにえかれし笑ふか
 ありと書

以下永昌坊清白寺人跋

史他緒人の世帯と雖もてその見句とえ
 か好かる奥不垢深林鶴子け道と好く
 年久し昔、さき一回得よしい集法編心
 吁奇なるもの如右今白龍句を連文あり
 ちりぬいせしむ高命の心終るぬる
 らんやうとて趣とてそのまゝぬれ

京羽二重

元禄にいつの如く中秋中流

幽竹堂

幸佐

おとんと又はきく星いりけに娘の子お
 うにならひ風雅乃縷とまゝと心をけい雅あ
 浴のやん子滑き乃林よ遊りく好まの葉を
 吸ひ妙句と翅よけいん鍾とやう一緯と南
 一京羽二重折縉と織やと乞御能とん
 呉服より胡曾衣と作まの伯余裳よ継
 よしき—— 女鴻土の切

重徳

詩を辨て織く情の色と成せしハ夫平
貞後の世のありに能く京の二事伏御て
風雅を述しハ世のや散れゆくは
其人の惟る何系の世を紡績れ勤し
あやむいともあひてきこなりぬ
市中といはれしはまよふに思ふ
元禄三の秋国燕去の末に下塵の塵土

也流亭

去春

むよのあはれを人かき錦よ詩と
織くわう京乃おのこハ羽二重小
訛諧を織くまそ世ハ此寶と
かみれハ三三離林タツ鳩

信徳

林鴉子其て詠書板のりるるの成る家
 見病いおほくは好奇人乃勿所持の奥
 誰この跡を尋りてみし筆跡加ふとて
 物も我世を尋る所は雨の如露の如
 凡と一夜乃紙服其のくははし
 是のく系羽の筆跡を尋るははし
 へんとも何

露の如
 和反

